

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	公益財団法人熊本県立劇場	
施設名	熊本県立劇場	
内定額	14,611	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数			
年間事業本数（※1）	主催事業	27	31
	公演事業	13	17
	（内、本助成対象事業本数）	3	3
	人材養成事業	5	4
	（内、本助成対象事業本数）	3	2
	普及啓発事業	9	10
	（内、本助成対象事業本数）	6	6
	その他 内容： 記入してください		
貸館日数	ホールごとの貸館日数	323	438
	ホール名：コンサートホール 座席数：1810	154	214
	ホール名：演劇ホール 座席数：1172	169	224
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		
	ホール名：記入してください 座席数：記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	24,431	40,910
	公演事業	12,777	18,456
	人材養成事業	1,505	7,305
	普及啓発事業	10,149	15,149
	その他 内容： 記入してください		
	貸館事業入場者・参加者数	217,327	300,360
	その他 内容： 記入してください		
	計	241,758	341,270
施設の利用率(%)		84.2%	80.5%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	7	10	6,611	76.1%	2	5	0	0	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	6	6	6,166	60.9%	0	5	0	1	0	0	0
	貸館公演（※3）	277	274	190,012	46.6%	15	116	21	2	5	13	105
	計	290	290	202,789								
令和6年度	主催公演（※1）	9	11	6,746	72.3%	2	7	0	0	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	10	10	8,277	63.8%	0	7	1	1	0	0	1
	貸館公演（※3）	335	335	265,127	54.4%	22	166	16	3	5	8	115
	計	354	356	280,150								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数		入場者 率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
公-01	第66回熊本県芸術文化祭 オープニングステージ	目標 値	890	78.9%	観客満足度	アンケートの5段階評価で 「たいへん満足」「満足」の 回答が95%以上	98.5%	入場者数は目標の95%にとどまったが、 観客満足度は目標を3.5ポイント上回り、 新規観客数は目標の2.6倍超となった。 当劇場にとって和太鼓公演は比較的 ニッチなジャンルで、これだけの新たな 顧客を獲得できたことは大きな収穫とい える。		
		実績 値	845	74.9%	新規観客数	総入場者(招待者を含む) の約8%にあたる70人の新 規観客を得る	184人(アンケートの 回答および回収率 から推算)			
公-02	ホワイエサロンコンサート	目標 値	540	100.0%	観客満足度	アンケートの5段階評価で 「たいへん満足」「満足」の 回答が95%以上	99.0%	3公演のうち2公演が完売し、観客満足 度やリピーター獲得も目標を達成するこ とができた。本事業は令和4年度から当 該年度までに10回実施しており、一定の リピーターを獲得できたことは評価でき る。		
		実績 値	512	94.8%	リピーター数	総入場者(招待者を含む) の約15%にあたる80人の リピーターを得る	104人(アンケートの 回答および回収率 から推算)			
公-03	パーヴォ・ヤルヴィ指揮 ド イツ・カンマーフィルハーモ ニー管弦楽団	目標 値	1,600	88.4%	観客満足度	アンケートの5段階評価で 「たいへん満足」「満足」の 回答が90%以上	99.5%	集客はたいへん苦戦し、目標を大きく下 回った。旅費運搬費の高騰や円安によ る公演料の高騰をチケット代に転嫁せざ るを得なかったことが影響したと思われ る。一方で観客満足度は非常に高く、来 場者からは高評価を得られた。		
		実績 値	990	54.7%	新規観客数	総入場者(招待者を含む) の約10%にあたる160人の 新規観客を得る	168人(アンケートの 回答および回収率 から推算)			

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点	
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)	

(1) 令和6年度の自己評価

- ・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業	①企画力 観客の評価(アンケート)	①公演内容や芸術性について、自由記述でポジティブな評価を得る	①アンケートの回収率は公-01が36.9%、公-02が54.7%、公-03が22.5%で、ポジティブな評価を多数得られた。	全事業において観客満足度、新規顧客数やリピーター数といった指標でいずれも目標値を達成した(アンケート集計より)。 集客面では、公-01「第66回熊本県芸術文化祭オープニングステージ」と公-02「ホワイエサロンコンサート」はほぼ目標を達成したものの、公-03「パーヴォ・ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマーフィルハーモニーオーケストラ」は目標を大きく下回った。旅費運搬費の高騰や円安による公演料の高騰をチケット代に転嫁せざるを得なかったことが影響したと思われる。公-03の観客満足度は非常に高い(99.5%)ため、出演者やプログラムの魅力をより伝えられる広報に努める必要がある。 外部評価委員の評価については、それぞれの事業について下記のような目的を示し、いずれも大いにもしくは概ね達成と評価された。 公-01:国重要有形民俗文化財の宇土雨乞い太太鼓の継承発展のため、日本を代表する太鼓芸能集団「鼓童」とのクリエイションを通して後継者育成に繋げる。本公演を創作・上演することで和太鼓の新たな価値を創造し、県内の太鼓文化全体の発展に寄与する。 公-02:ホワイエを会場とし、これまで実施頻度が少なかった室内楽公演の鑑賞機会を提供。新たな聴衆の獲得を目指す。多様なプログラムを用意し、幅広い層の観客に訴求する。 公-03:コンサートホールの性能を最大限に生かしたオーケストラ公演を企画することで、県民が質の高い実演芸術に触れる機会を創出し、鑑賞機会の拡大を図る。		
	②自由設定の観点 文化事業評価委員(外部評価委員)のレポート	②半数以上から肯定的な評価を得る	②公演事業を鑑賞した委員から7件のレポートの提出があり、うち6件が「事業目的を大いに達成できた」、1件が「概ね達成できた」との評価だった。			
人材養成事業	①企画力 専門的人材の育成度(アンケート)	①スキルが向上した、関心度が増した等の回答を得る	①アンケート集計より、平均96.9%がスキルアップにつながった、98.4%がもっと深く知りたいと回答した。	人材養成の2事業とも、舞台芸術を担う人材の育成を目的とした事業。 人-01「劇場人育成プログラム」は、熊本県内の公共ホールはいずれも人員や予算に余裕がなく、都市部の研修にいくことが難しいという状況を鑑み、公共ホール職員向けの9回の研修プログラムを策定。目標の111.5%にあたる223人が受講した。受講を経てスキルが向上した、関心度が増したと回答する受講生が95%を超えており、専門人材の育成に一定程度寄与したと評価できる。 人-02「舞台技術の基礎講座」についても、参加者アンケートで「舞台技術の仕事への興味が深まったか」「今後の活動に役立つと思うか」「舞台技術の仕事についてもっと深く知りたいと思うか」といった質問に全員が「はい」と回答。将来は劇場で働いてみたい、舞台技術の専門学校に進学したいという声もあり、一定の効果を挙げたと思われる。		
	②自由設定の観点 文化事業評価委員(外部評価委員)のレポート	②半数以上から肯定的な評価を得る	②人材養成事業を視察した委員から1件のレポートの提出があり、「事業目的を大いに達成できた」と評価された。			
普及啓発事業	①レジデントカンパニー・アーティスト 劇場登録アーティストの起用	①演奏家派遣アウトリーチ事業(普-1)において、劇場がオーディションにより採用、育成したアーティストを起用する	①劇場が令和5年度に採用・育成したアーティスト3人に加え、過去に育成したアーティスト6人、合計9人を起用した。	劇場の登録アーティストによるアウトリーチを11市町村で62回実施。登録アーティストの起用により、安定的に実施できている。 外部評価委員の評価については、それぞれの事業について下記のような目的を示し、いずれも大いにもしくは概ね達成と評価された。 普-01:これまで劇場に足を運んだことがない、あるいは文化芸術にあまり触れる機会が少ない子どもたちにアート体験の機会を提供し、地域の音楽分野における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与する。 普-02:子どもたちに文化芸術の魅力を伝え、豊かな想像力や表現力を育くむ。 普-03:知的・発達障がい児者に劇場の音の大きさや響き、照明の効果による明暗、鑑賞者としてのルールなどについてコンサート等を鑑賞しながら学んでもらい、芸術や文化に触れる機会の増大につなげる。 普-04:、障がいの有無等にかかわらず、誰もが文化芸術に親しめる環境づくりを行う。身体を使って表現する喜びや楽しさを伝え、生涯にわたって文化芸術を楽しむきっかけづくりとする。 普-05:地域に開かれた「共生の劇場」として、また震災からの「こころの復興」として県民相互の交流やコミュニケーションの役割を果たす。 普-06:県内の市町村ホールと連携し公演を実施、県全域で舞台芸術を鑑賞できる機会を提供する。		
	②自由設定の観点 文化事業評価委員(外部評価委員)のレポート	②半数以上から肯定的な評価を得る	②普及啓発事業を視察した委員から7件のレポートの提出があり、うち4件が「事業目的を大いに達成できた」、3件が「概ね達成できた」との評価だった。			

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

公-01、公-02②:2つの公演で新曲を初演。公-01では、国内外で活躍する作曲家の藤倉大氏に作曲を依頼し、その新曲をもとにクリエイションを実施。公演の第2部で世界初演の演奏を行った。公-02②では、熊本大学教育学部音楽科特任准教授の稲森安太氏が新曲を作曲。熊本県民になじみの深い水辺からインスピレーションを受けた「Am Ezu-See(江津湖にて)」を日本初演。現代音楽を初めて聴く観客にも親しみやすい曲を盛り込んだプログラムとなった。
公-01:オーディションで選出した18名の出演者のうち2名が、公演終了後に太鼓芸能集団鼓童の研修所を受験し、合格。令和7年4月より鼓童の研修生として新潟県佐渡市に移住し、研鑽を積んでいる。そのうちの一人は公演終了後のインタビューで「この経験を生かして成長したい」と語っており、本事業をきっかけにプロの演奏家を目指し活動することとなり、県立劇場の「未来を担う世代を育成する劇場」というミッションに基づいた公演となった。
人-01:外部評価委員から「地方の中小規模館では実施が難しい多様な研修を県の拠点館として担う、全国的にも意義深い取組であり、県内文化施設職員の資質向上に大きく貢献している。講師陣の選定も時宜を得ており、劇場が直面する課題に即した有意義な内容となっており、十分に成果を上げている」との評価を得た。
人-02:参加者から「音響や舞台の裏側に興味があっても、普段なかなかプロの人から学べることはないからとてもいい経験になった、将来、音楽やエンタメに関われたらいいなと思っているので夢が少し現実に近いかなと思います」との関心度が増したことが伺える回答もあった。慢性的な人材不足に悩む舞台技術業界を就職の選択肢として考えてもらおうと、現場を知り、現場の人と関わる貴重な機会を提供することができた。
普-01:令和5年度に実施した登録アーティストのオーディションと研修会を経て、3名の新登録アーティストが令和6年度からアウトリーチに参加した。新登録アーティストからは「楽器に触れるなどの体験をしてもらうことで、子どもたちの顔が輝き、より興味をもって聴いてくれることを実感した」と、手ごたえを感じている様子だった。ビジョン③に掲げる「育てる劇場」としての成果もあげることができた。
普-01:演奏家がホールなどではなく、いつも授業を受けている教室などを訪れ、近い距離感の中で行うため、学校側へのアンケートでは「音楽の授業でVTRの中でしか聞けない本物の音色が聞けることがすばらしかった。息遣いまで感じられた」、「子どもたちの目がキラキラしていて、興味をもって取り組んでいる様子が伝わってきました」など教育現場からの評価を得られた。
普-01:児童へのアンケートでは、「前よりも音楽が好きになった」が77.8%、「コンサートに行きたくなった」が55.2%と、子どもたちの音楽に対する興味を喚起するという事業目的を達成している。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①国際プレゼンスの向上 海外からの招聘公演数 ②新たな創客への取組 在住外国人もしくは訪日外国人の入 場者・参加者数	①2本 ②合計100人 (公演事業および普及啓発事業5)	①2本 ②目視で一定程度の入場を確認して いるが、数値までは収集できなかつ た。令和7年度は収集方法を検討し たい。	公-02「ホワイエサロンコンサート」においてドイツの現代音楽アンサブル 「Ensemble Horizonte」を、公-03「パーヴォ・ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマー フィルハーモニー管弦楽団」において同管弦楽団を招聘した。 熊本では台湾の半導体大手・TSMCの大規模工場稼働に伴い、海外から千 人規模の従業員や家族が移住。また、台湾との直行便も就航、ビジネス・観 光客も増加している。 こういった新たな客層に向け、公-01「第66回熊本県芸術文化祭オープニン グステージ」(和太鼓)や普-05「県劇盆踊り」などを実施し、日本や熊本の伝 統的な文化芸術体験を提供した。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・普-05:県劇盆踊りでは、地元の大学に留学している外国人学生が浴衣で来場。地元住民たちとやぐらの周りで盆踊りを楽しんだあと、生演奏を行った邦楽エンターテインメント集団「あべや」 との交流をする様子もみられた。 ・公-01:公演に参加した1名は、ALTとして熊本に来日していたアメリカ出身の太鼓演奏者。公演当日は海外にルーツのある観客も多く来場した。 ・台湾 高尾市立文化センターとの情報交換・交流がスタート、令和7年1月には館長が渡台し視察、情報交換した。 (令和7年5月に同センターと連携協定締結)

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
①文化拠点 熊本の文化資源を活用した事業/公演の本数 ②地域連携 市町村ホールや関係機関との協働事業/公演数 ③子どもへの機会提供 子どもの鑑賞・参加者数 (学校へのアウトリーチ事業等参加者数および、公演事業での子ども招待や割引制度利用者数) ④ホール利用サービスの向上 利用者評価(アンケート)	①3事業/公演に熊本の文化資源を活用する ②30事業/公演 ③2,000人以上 ④各項目(手続き、対応、設備等4段階評価)3.5以上の評価を得る	① 4事業/公演に活用した。 ②38事業/公演 ③2,425人 ④6項目中、5項目で達成した	①公-01「第66回熊本県芸術文化祭オープニングステージ」では宇土の雨乞い大太鼓に焦点を当て、作品を制作。また、地元のホールである宇土市民会館と練習場の使用等で協力してクリエイションを行った。 公-02「ホワイエサロンシリーズ」では、県内出身のアーティストを積極的に起用し、令和6年度実施の3公演中、2公演に県出身のアーティストが出演した。 普-05「県劇盆踊り」では県の島しょ部から牛深ハイヤ保存会を招聘。生演奏とともに来場者は誰でも踊って楽しめる機会を提供した。 普-06「市町村ネットワーク事業」では県の重要無形文化財である人形浄瑠璃清和文楽の公演を県内ホールで実施した。 ②普-01「演奏家派遣アウトリーチ事業」で11の市町村ホールや教育委員会などと連携、普-06「市町村ネットワーク事業」で市町村ホールと共催で13公演を実施した。そのほか、人-02「舞台技術の基礎講座」で熊本市内のホールを会場に、技術スタッフ同士が打合せを重ね当日の運営から講師までを協働して取り組むなど、多くの関係機関と連携・協力した。 ③普-01「演奏家派遣アウトリーチ事業」では、令和5年度に新規採用した3人のアーティストを含む9人のアーティストにより、県内各地で授業を行った。これまで実施のなかった地域に新規開校した義務教育学校での授業を行うなど、新たな実施市町村を増やしている。子どもの無料招待事業を1公演実施し、青少年が文化芸術に触れる機会を増やした。 ④ 料金以外のすべての項目については、3.5以上の評価を得た。特に、フロアの対応やステージでの対応で高い評価を得ており、次回利用にもつながっている。料金については、使用料制のため熊本県立劇場が単独で設定金額を変更することはできないが、県の担当課には利用者の意見をフィードバックしている。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・普-02:①「絵本のじかんだよ」のアンケートでは熊本県立劇場での鑑賞回数に63.8%が「はじめて」と回答。新たな客層の開拓につながった。 ・普-02:令和6年度に始動した子ども向けの「けんげきッズプログラム」では、劇場で3演目を鑑賞し、劇場に感想を送付してもらう「かんげきアクティビティブック」を配布した。提出者からは劇場はどんなところか？の問いに「わくわくします」、「げんきになれる」、「すごいところ」など回答があり、劇場にまた行きたくなったか？の問いには、「はい」、「とっても」など全員が「また行きたい」と回答した。提出されたアクティビティブックは劇場職員の一言コメントを記入し、返却している。将来の観客や参画者を育てるこの取り組みでは、より劇場を身近に感じてもらうことができ、初年度から手ごたえを感じることができた。 ・普-05:アンケートには「こういう地域交流の場を増やして欲しい」という声があり、地域にある劇場が交流の場として機能し、存在感を示している。 ・普-06:総入場者数は目標の2,750人に対して189.4%にあたる5,210人を獲得し、県内全域で文化芸術に触れる機会を創出した。コロナ禍からの復調に加え、劇場が提示する公演ラインアップの見直しやオーダーメイド型による地域のニーズに合った公演の実施が可能になったことが総入場者数増加につながった。 ・公-01:オーディションで選出した18名の出演者のうち2名が、公演終了後に太鼓芸能集団鼓童の研修所を受験し、合格。令和7年4月より鼓童の研修生として新潟県佐渡市に移住し、研鑽を積んでいる。そのうちの一人は公演終了後のインタビューで「この経験を生かして成長したい」と語っており、本事業をきっかけにプロの演奏家を目指し活動することとなり、県立劇場の「未来を担う世代を育成する劇場」というミッションに基づいた公演となった。 ・公-03:子どもたちが本格的な実演芸術を鑑賞・体験等する機会の提供及び将来の文化芸術の担い手や観客育成に資することを目的とし、「パーヴォ・ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団」で子ども招待を実施。

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①アクセシビリティ 障害がある方の鑑賞・参加数(障がい者等割引サービスの利用者数および知的発達障がい児者に向けた劇場体験プログラムやダンスワークショップの参加者数) ②アクセシビリティ 外国人等の来場を促進するための情報保障	①400人以上 ②公式ウェブサイトによさしい日本語ページを作成するほか、自動翻訳機能を導入する	①722人 ②やさしい日本語ページを設置し、自動翻訳機能は英語、中文(繁体語)、中文(簡体語)、韓国語に対応した。	公演事業すべてで障がい者等割引を設定、3事業で69人の利用があった。また、知的発達障がい児者に向けた劇場体験プログラム(普-03)は570人、ダンスワークショップ(普-04)は83人が参加した。障がいがある人が参加しやすい制度、プログラムとして一定の成果を挙げている。 公式ウェブサイトのやさしい日本語ページの年間アクセス数は306、翻訳ページは352。今後はより情報が届きやすいよう周知を進めたい。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・普-03:「劇場って楽しい！！」ではこの取り組みを県内のホールに広めるべく、初めて熊本県立劇場以外のホールで実施。会場となったのは車で熊本市内から2時間ほどの距離がある天草市民センターで、天草公演のアンケートには「以前からとても興味があった」や「今後もこのような公演開催をお願いします」など、県内各地にこの取り組みを必要としている対象者がいることを改めて感じた。その他、「天草という島で、コンサートをしてもらえるなんてとても珍しいし、感謝」、「県立劇場は遠いので簡単にはいきませんが、天草で公演があったので嬉しかったです」などのコメントがあり、障がいを持つ鑑賞者にむけた鑑賞の機会拡大につながった。
・普-03:「劇場って楽しい！！」熊本公演では重度障がいを持つ団体が来場。団体の全員が車いすを利用し、スタッフはAEDを持参、なかには酸素吸入器を使用されている方も来場した。熊本公演では回数を重ねるごとに重度障がいを持たれる方の来場が増えており、平成31年から続けている取り組みが認知されていることが伺える。
・普-03:熊本県立劇場の文化事業評価委員(外部評価委員)からは「普段文化施設に馴染みのない障害のある人たちが、文化施設に触れる良い機会になっていると思う」との評価を得た。
・普-04:熊本県立劇場の文化事業評価委員(外部評価委員)からは、「性別・世代・障がいの有無に関係なく「いっしょにおどる」という非日常行為で、異なる身体性や表現方法を持つ参加者同士が「つながる」一体感や、それを見守る場のあたたかな空気が心地よく、あたらしい感覚でした」や「なんとなく近所の子どもと遊ぶ感覚で思わず加わり、こちらも楽しい時間を過ごさせていただきました。制限しない自由なスタイルながら、自然と全体を巻き込んでいく、素晴らしい取り組みだと思いました」との評価を得た。熊本県立劇場がミッション①に掲げる「共生の広場としての劇場」を実現している。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保) 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	文化庁助成金に採択されたほか、館長・理事長自ら協賛金獲得に努めているが、広告料は年々減少傾向	広告料及び協賛金収入/2,789千円(R6年度目標)	広告料及び協賛金収入/1,150千円	広告料及び協賛金収入は目標の41%にとどまった。助成金収入は本事業のほか、「子供舞台芸術鑑賞体験支援事業」「劇場・音楽堂等機能強化推進事業(共同制作事業)」に採択されたほか、熊本県労働局の「両立支援等助成金」も獲得した。		
(イ)	(広報・営業力) 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	新規顧客の開拓に向け、ターゲットに合わせた広報媒体を最大限活用し、広報活動を拡充	年間来館者数目標/530,000人 チケット先行予約会員数の20%アップ	年間来館者数/459,225人 チケット先行予約会員数/14%アップ	来館者数は目標の87%に留まったものの、前年比では38%増となっており、コロナ禍の落ち込みから回復させている。		
(ウ)	(他館連携) 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	県内公立文化施設と共催/連携し公演やアウトリーチ事業等を実施している	年間30公演(事業)で他館と共催/連携する	38事業/公演で連携した	熊本県内の市町村ホールとの事業連携をはじめ、全国共同制作オペラへの参画、九州域内の類似規模ホールとの情報交換会など、他館と積極的に連携している。		
(エ)	(設置者) 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	設置者である熊本県とは常に新しい情報を共有するため、月1回対面での報告会を実施	引き続き情報の共有に努める	月1回の報告会の実施のほか、随時情報共有している	適時適切に意思疎通している。		
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督) 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	館長が芸術面や社会性等を統括している		館長が芸術面や社会性等を統括している。	適切に配置されている。		
(カ)	(長期的経営) 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。	財団運営、事業、施設管理全般に精通し、経営・企画力を有する職員を複数人育成中		財団プロパーが事務局長として実務を司っている。	適切に配置されている。		
(キ)	(専門人材の確保) 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	令和2年度に開始した劇場職員向け研修「劇場人育成プログラム」を継続して実施、専門性の向上を図っている		正規職員比率を高め、人材確保と専門性向上に努めている。	人材確保と専門性向上に努めている。		
(ク)	(職制の整理) 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	令和2年に「人事評価実施要項」制定。職能及び業務内容を整理し可視化した		令和2年に制定した「人事評価実施要項」に基づき整理、役割分担している。	適切に整理、役割分担している。		
(ケ)	(世代間バランス) 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	採用時には受験者の成績のほか、年齢バランスを考慮している	長期的視点に立った採用計画を立案する	30～50代がボリュームゾーンのため、令和6年度に20代の職員を採用した。	年齢バランスを考慮しているものの、急激な若返りは難しく、引き続き若年層の雇用に努める必要がある。		
(コ)	(ジェンダーバランス) 女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	10年前女性管理職はゼロだったが、令和6年度3名全員女性	性別、年齢、勤続年数に関わらず、能力のある職員は積極的に管理職へ登用する	女性管理職比率が60%	ジェンダーにとらわれない登用ができている。		
(サ)	(ワークライフ・バランス) 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	育児・介護休業に関する規程を整備。現在職員1名が1年の育児休業を取得中。また1名は育児短時間勤務を利用中	厚労省等の助成金を活用し、推進する	熊本県労働局の「両立支援等助成金」を活用している。	両立支援制度を整備し、推進できている。		
(シ)	(コンプライアンス順守) 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	情報システムの管理及び運用に関する規程を整備。毎年外部講師による職員研修を実施	毎年1回以上情報セキュリティ研修を実施する	12月18日にコンプライアンス研修を実施した。	規程の制定、研修実施ともに履行できている。		
(ス)	(ハラスメント防止対策) 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	ハラスメント防止に関する規程と、ハラスメント対策委員会を設置。毎年外部講師による職員研修を実施	毎年1回以上ハラスメント研修を実施する	1月21日にハラスメント研修を実施した。	規程の制定、研修実施ともに履行できている。		
(セ)	(適正な契約事務) アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	会計規程に基づき契約書を作成。また、内容については関連法を確認しながら随時更新している		会計規程に基づき契約を交わしている。	適正に契約を交わしている。		

4. 総評

・ 団体の自己評価

【公演事業】
クラシック音楽と演劇等の2つの専門ホールを持つ熊本県唯一の劇場として、県民に良質な舞台公演鑑賞・参加の機会を提供するため、3本の公演事業を実施した。
公-01「第66回熊本県芸術文化祭オープニングステージ」は、熊本の文化資源である「宇土雨乞い大太鼓」をテーマにした創作舞台。太鼓芸能集団「鼓童」とオーディションで選出した参加者18人が、国内外で活躍する作曲家・藤倉大の新作等に取り組んだ。公-02「ホワイエサロンコンサート」はホワイエを会場とした室内楽シリーズ。県出身・在住の若手アーティストの起用や大学との連携したオリジナルプログラムで、3公演のうち2公演を完売している。公-03「パーヴォ・ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団」は、熊本では鑑賞する機会が少ない高水準のオーケストラを海外から招聘する事業。旅費運搬費の高騰や円安による公演料の高騰をチケット代に添加せざるを得ず、集客に苦戦した。観客満足度は非常に高かった(99.5%)ため、出演者やプログラムの魅力をより伝えられる広報に努める必要がある。一方で、子ども60人を無料招待し、次代を担う子どもたちの鑑賞機会を創出した。応募事業以外では、全国共同制作オペラ「ラ・ボエーム」に参画。全国6館の劇場と連携し、熊本を含めすべての公演地で完売した。このほか「佐渡裕指揮新日本フィルハーモニー交響楽団」や東京芸術劇場制作の「La Mère 母」など、多彩な公演事業を実施した。
なお、すべての公演において25歳以下の青少年や障害のある方への割引制度(U25割、障割)を設定。U25割は390人、障割は69人が利用、多様な層の来場促進につなげた。

【人材養成事業】
舞台芸術を担う人材の育成を目的に、2本の人材育成事業を実施した。人-01「劇場人育成プログラム」は公共ホール職員向けの全9回の研修プログラムで、延べ223人が受講し、アンケートによると96.9%がスキルアップにつながったと回答。ホール職員の専門性向上につなげた。人-02「舞台技術の基礎講座」は、高校生、専門学校生、大学生を対象とした講座。参加者アンケートでは、「舞台技術の仕事への興味が深まったか」「今後の活動に役立つと思うか」「舞台技術の仕事についてもっと深く知りたいと思うか」といった質問に全員が「はい」と回答。将来は劇場で働いてみたい、舞台技術の専門学校に進学したいという声もあり、一定の効果を挙げたと思われる。
アーティスト育成の事業としては、東京藝術大学と連携し地域における卓越人材の発掘・育成を行う「早期教育プロジェクト」や、福岡・長崎・大分の劇場と連携しジュニアオーケストラの合同演奏会を行う「北部九州ジュニアオーケストラ・ミュージックフェスティバル」(いずれも応募事業外)に取り組んだ。

【普及啓発事業】
劇場での活動にとどまらず、県域全体に実演芸術を届けるため、普-01「演奏家派遣アウトリーチ事業」や普-06「市町村ネットワーク事業」を実施した。「演奏家派遣アウトリーチ事業」は62コマ実施、1,617人の児童生徒が参加した。児童生徒へのアンケートでは、「前よりも音楽が好きになった」が77.8%、「コンサートに行きたくなった」が55.2%と、子どもたちの音楽に対する興味を喚起するという事業目的を達成している。「市町村ネットワーク事業」は県内全域での舞台芸術鑑賞機会の創出を目的に公演を実施する事業で、令和6年度は近年で最多の全13公演を実施した。これら2事業は市町村の文化施設または教育委員会と連携し実施、地域文化拠点としての機能を果たしている。
障害の有無に関わらず文化芸術を享受できる機会を提供するため、普-03「劇場って楽しい！！」および普-04「みんなで踊ろう！」を実施した。「劇場って楽しい！！」は令和元年度からスタートした知的・発達障がい児(者)向けの劇場体験プログラムで、回を重ねるごとに参加希望が増えている。今年度は天草市民センターと共催で天草公演を実施、本取り組みを拡大することができた。障害の有無に関わらず参加できるダンスワークショップ「みんなで踊ろう！」は令和5年度に続き2回目の実施。鑑賞型の「劇場って楽しい！！」に加え、参加型の本事業の実施で、プログラムの多様化を図った。
普-02「けんげきキッズプログラム」は次代を担う子どもたちを対象とした鑑賞・体験事業。これまでも単発で公演等を実施してきたが、キッズプログラムとしてカテゴライズして実施することで認知度を向上させた。鑑賞補助ツールとしてオリジナルのアクティビティブックを作成。簡単な問いを設け、鑑賞体験を深めるよう工夫、何度も劇場に足を運んでもらうきっかけとし、未来の劇場ファンを増やすことを目指して配布と運用に取り組んだ。
普-05「県劇盆踊り」は、熊本地震被害に伴う臨時休館からの再開を機にスタートした事業で、多様な層に熊本の地域文化資源(民謡や舞踊)に触れ、親んでもらう機会を提供。年々来場者が増加し、令和6年度は2,000人が来場した。

・ 所見

